

台湾中部大地震から20年

1999年9月21日、台湾中部を震源とする大地震が台湾で発生しました。この地震はその後、発生日から921大地震（あるいは震源地の地名から集集大地震）と呼ばれるようになりました。マグニチュードは7.6で、内陸で発生する地震としては最大規模と言えるものでした。ちなみに日本の内陸で発生した地震で、マグニチュード7.6を越える地震は1891年に発生した濃尾地震（M8.0）があるだけです。それくらい規模の大きな地震でした。

この地震では、死者・行方不明が2,444名という大きな人的被害のほか、電子部品等の生産ラインに大きな被害が発生し、パソコン関係系の部品供給が世界的に滞るといった事態が発生しました。特にメインボードやDRAMなどの主要部品の値上がり等が発生しました。ちなみに当時の台湾のノートパソコンおよびパソコン用メインボードの世界シェアはそれぞれ40%、61%というデータが残っています。

今月21日には、日本が当時、救助隊などを派遣したことについて、蔡英文総統は「改めて心から感謝の気持ちを伝える」などと述べたメッセージをツイッターに投稿しました。この地震では、日本が緊急救助隊を最初に派遣し、被災者の救助に当たりました。蔡氏は「東日本大震災時、台湾人が被災地を支援したのは、20年前の日本の支援に勇気づけられたからだ」と強調しています。東日本大震災の時には台湾から200億円を超える義援金が寄せられましたが、それにはこのような日本の活動があった事が背景にあると思われます。

この地震を風化させないため、台湾では震源地近くの当時の中学校に、震災記念館（921地震教育園）を設立しました。開館直後に私もこの記念館を訪問いたしました。従来のこの種の施設とは違い、「人」が主体となっており、未来志向の記念館となっているのが大きな特徴です。ここは台湾を訪れる日本人にぜひ訪れて頂きたい施設と考えます。

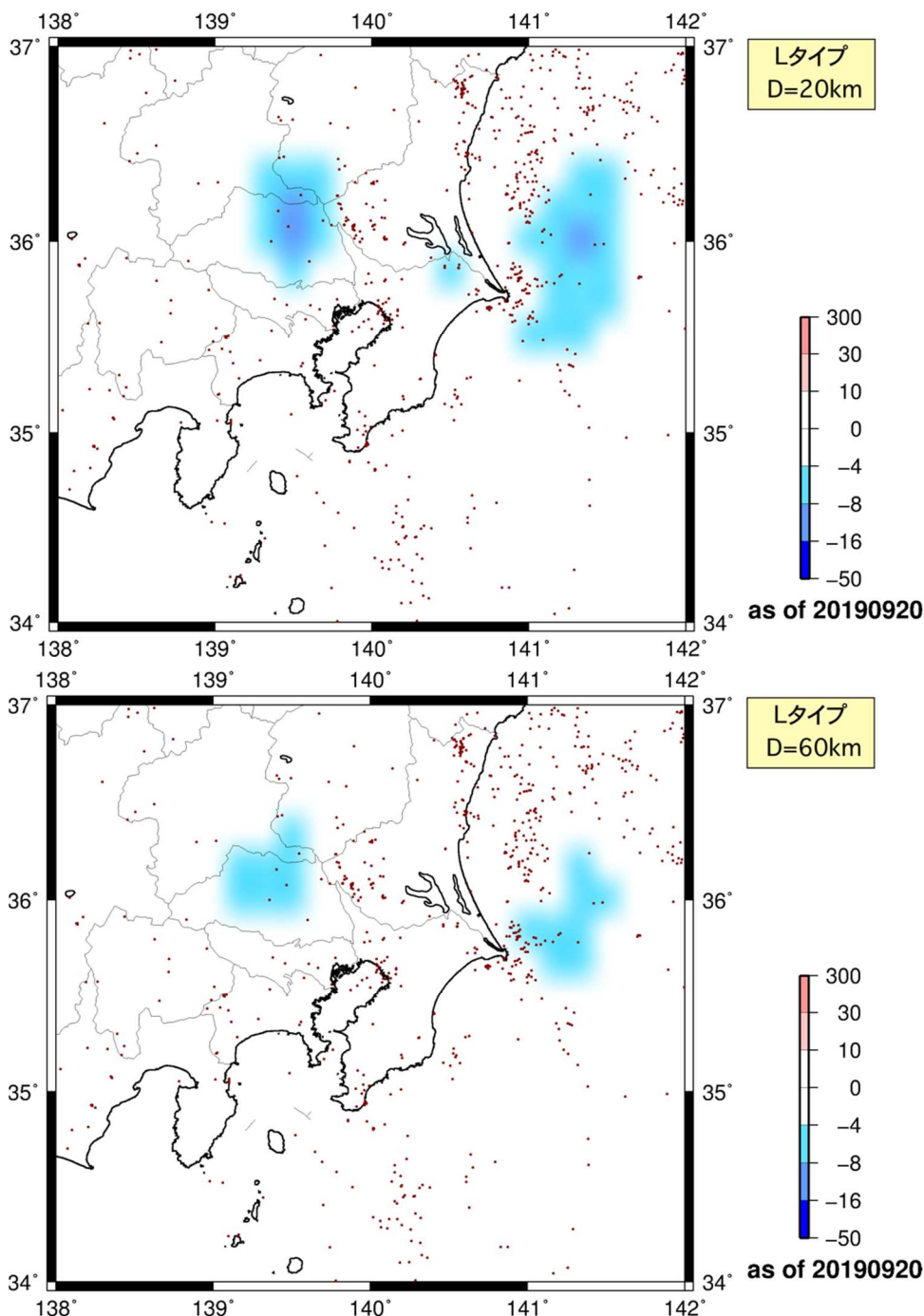


921地震教育園（DuMA/CSO撮影）



首都圏の地下天気図®

8月15日のニュースレターに引き続き、9月20日時点の首都圏に特化した地下天気図です。首都圏は直下にフィリピン海プレート、その下に太平洋プレートが存在し、非常に深い所まで地震が発生しているという特徴があります。今回は深さ20km、60kmで計算してみました。Lタイプでも Mタイプでもほぼ同じ地域に地震活動静穏化の異常(地図上で青い領域)となっています。そのため今週はLタイプの地下天気図をお示しします。



茨城県沖から房総半島沖にかけての地域と埼玉県を中心とする地域で異常となっています。特に埼玉県は1931年にM6.9、1968年にM6.1の地震が発生して以来、マグニチュード6を越える地震が発生していないという状況です。